

【令和6年度 萩博物館の目標】評価シート(定性評価)

目標	達成内容・基準		評価	成果と課題
	項目	概要		
1 博物館展示の戦略的な展開	アフターコロナに対応した魅力的な展示会を年間通じて戦略的に展開し、萩の地域資源や魅力・課題を多角的に発信する。また、開館20年に向け、理想的かつ現実的な展示会の運営体制を構築する。			
	博物館展示の在り方検討	年間来館者数の設定と展示予算の確保への行動、特別料金設定の検証と今後の手法、料金徴取と受付・館内案内とガイドの在り方を検討する。	3	夏展で前年度同様に特別料金を設定し検証／料金徴収等の在り方については継続して検討
	特別展・企画展の企画・実施	長期を見据えた戦略的な展示企画、アフターコロナ向けターゲットを設定、各展の目標を達成するため弾力的かつ無駄なく予算を運用する。以上を学芸会議で調整、実施後に手法と効果を点検・検証してR6以降予算や展示の企画に戦略的に反映する。	2	可能な限り無駄のない予算運用は実施／展示実施後の手法と効果の点検・検証は不十分
	常設展の運営・展開	「見ごたえ」の増強策を検討して試行し、R6以降予算に計上；wi-fi・ポケット学芸員などの利用拡大、ガイドの在り方の再検討などにより観覧環境を向上させる。	2	ある程度の検討には着手したが試行に至らず
	付帯事業	各展の魅力を増幅するため、デジタルツールなどの導入、展示映像・場内企画・追加企画などの強化、HP・SNSなどを含めた情報発信の仕組みを強化する。また新たに学校教育・市民連携+改正博物館法に沿った他館との連携による新スタイルの展示を模索する。	4	一部の展示会で映像や追加企画を実施・展開／HPを更新・強化／SNS発信は一部の展示会にて増進、他は継続検討／NPO まち博会員や高校生サポーターなどと企画で連携
実行委員会	実行委員会の役割(目的や範疇)、体制(構成委員)、開催形態の見直し、プロポーザルを含めた企画・制作・運営のあり方を見直しを行う。	3	現実性を考慮しつつ役割や体制の見直しを実施、年度末または次年度に新体制へ移行	
2 地域に繋がる博物館	関係各課や団体との連携を強化しつつ、まちじゅう博物館構想に基づき、社会に開かれ地域に繋がるこれからの萩博物館の在り方を模索し、これに必要な体制や受入れ環境の整備を行う。			
	開かれた博物館(内)	まち歩きステーション、探Qはぎ博の運営と展開を行う。野外展示、隅矢倉、長屋門、前庭など敷地全体の活用に向けたNPOとの協働と必要な整備の検討を行う。ユニバーサルミュージアム実現に向けての課題整理、部分的思考	2	一部の展示会で探Qはぎ博へ関連企画を展開／隅矢倉や前庭において秋の観光イベント等で新しい活用／ユニバーサルミュージアムについては多言語対応の検討開始
	開かれた博物館(外)	萩博、明倫、周辺のまち等を快適に周遊・観覧できるサイン・表示をプランニングする。文化財施設との共通観覧券の検討、シェアサイクルの活用などを行う。	1	次年度に新たな事業の中で検討
	繋がる博物館	明倫学舎との協働に向けて2館の強み・役割を整理し相乗効果・補完関係を構築する。小川展での協働の実践と検証を行う。また、萩博を拠点にまちの資源や魅力を共に発見し普及する担い手を確保・養成するため、市民学芸員講座を試行・調整する。	4	2館の役割の整理や相互関係は検討中／秋展(小川展)において、共通のPRや周遊企画を実施／市民学芸員講座を萩学講座として試行
	萩まちじゅう博覧会	まち博推進課と協働し、令和6年度の開催に向けた拠点施設としての検討・準備を行う。	3	博覧会の一部プログラムをNPOまち博と実施／エントランスに情報コーナー設置／拠点施設としての当館の役割は調整中
3 地域の調査研究機関としての博物館	萩の地域博物館として、萩の自然・歴史・文化に関わる地域資源の調査研究体制を再整備し、その研究成果を地域社会に還元するとともに、まちじゅう博物館構想や萩観光を通じて地域社会に貢献する。			
	地域総合博物館としての研究テーマ	中長期を見越して展開していく調査研究の展望と分野横断による萩らしい調査研究分野の模索を行う。	3	自然分野では中長期展望の検討を開始／分野横断の研究テーマは1件ほど検討を開始
	調査研究成果の発信	研究報告書の編集体制の構築を行う(R4の教訓を活かして)。研究報告書のPDF化、CiNii Research、J-STAGE等の学術データベースへの登録を行う。記者発表、ミニ展示など様々な手段を用いた研究成果を市民へ還元する。	4	研究報告書の学術DBへの登録を実施／記者発表を実施／自然分野では研究報告内容のミニ展示を準備中
	社会総がかりの調査研究体制	他館との連携による調査研究を行う。NPO 萩まちじゅう博物館学芸サポート班との協働できる調査研究テーマの模索・体制の構築を行う。関係課や外部機関・団体と連携した調査研究を行う。	3	山口県水産研究センターと下関市立しものせき水族館と継続して調査研究で連携／NPOまち博とは一部班と連携した調査を実施・継続

4 地域としての博物館 地域の社会教育施設	地域の社会教育施設として、当館が果たせる役割や意義、地域の求めることを整理し、市民や児童・生徒に萩の自然・歴史・文化、まちづくりや博物館学などを教育普及する。			
	学校教育	年間を通じての学校連携方針や計画をまとめ、学校教育課と調整する。各展示会を軸とした学校教育利用の推進を行う。	3	一部の展示会で学校教育利用を実施／中高校長会の萩博開催や「教員のための博物館」を実施、今後の利用方針や計画は次年度実施
	地域学習	各地域や須佐歴史民俗資料館、阿武川歴史民俗資料館と連携した地域学習プログラム・出前授業・館内授業・おたからプロジェクトなどのメニューを考案・整理、各総合事務所などと調整する。	3	各歴史民俗資料館との連携プログラムまでではないが、市内小中高等学校他で出前授業などを実施
	実習・授業の受入れ	博物館実習生、インターン、各種研修生の受け入れを行う。それら以外に提供できる出前授業・館内授業・おたからプロジェクトなどのメニューを考案・整理、告知して利用を呼びかけ、受け入れる。	3	博物館実習生他は例年どおり受入れ／出前授業などは新たなメニューまでには結びついていない
	天体観望会	今後の活動のビジョンを検討・調整し持続可能な運営体制づくりをする。	2	新たな体制づくりを検討
	人文系講座	史都萩を愛する会、古文書講座などの持続可能な運営体制づくりを行う。	2	現状を維持
5 資料の戦略的な 収集・管理と市民への還元	改正博物館法に沿って博物館の資料管理の意義を確認し、資料や情報を適切に管理すると共に、積極的に発信・活用して市民に還元する。			
	収集保管と修復	展示会での活用を想定し、戦略的に購入・制作・修繕；受入・寄贈・寄託の基準を整理する。資料の閲覧・貸出の基準・体制を再整備する。計画的な修復と外部財源の確保を行う。	3	部分的に寄贈・寄託の基準づくりを進めるものの全体的には未完／資料の貸出等の基準については作成／外部財源の確保は課題
	燻蒸	他館や事業者へ様々な燻蒸方法をヒアリングし、今後の萩博・明倫に合う現実的な燻蒸プランを考案し、R6以降予算へ計上する。	2	県内外の博物館・美術館より情報収集を推進／代替ガスが未完成のため、R7年度は様子見せざるを得ぬ状況
	公開	特別展・企画展での戦略的な公開、特別閲覧(プレミアム観覧、クラウドファンディング返礼など)など萩市の文化観光の向上に資する新たな活用策の検討を行う。戦略的な資料修繕・レプリカ制作プランを検討する。I.B.MUSEUM SaaS 他を活用したデジタルアーカイブ化と公開を行う。	2	夏展を中心に戦略的な公開は意識したものの新たな検討は進まず／次年度以降で要検討
	阿武川歴史民俗資料館・福栄倉庫の今後の検討	それぞれの収蔵資料のリスト化と共有、(移転を想定した)収蔵資料の保管・活用手法の具体的なプランの提示を行う。	3	阿武川歴史民俗については、収蔵資料のリスト化が進捗／保管・活用手法については今後
	書庫	書庫の図書収集基準、登録システムを再整備し、館内の図書を計画的に分担して再登録・配架を行う。	1	進捗せず
6 施設の計画的な 改修と運営	整備から15年以上を経過し、老朽化の進む施設及び設備の状況把握と計画的な修理・更新を実施するとともに、今後の15年を見据えて必要となる設備・機器の整備を計画的に行う。			
	非展示エリア	空調設備の全面更新事業(サマーレビュー案件)、施設点検に基づく計画的な施設の修繕を行う。	4	予定していた第1期更新は完了／施設修繕も予定どおり実施
	展示エリア	展示室の照明、機器、ケース等を点検・補充・更新計画を策定する。	3	点検・補充は随時実施／更新計画については検討中
	整備の検討	入館券のデジタル対応の検討、電話のIP電話化の検討を行う。福川倉庫の改修の可否、阿武川歴史民俗資料館の存続の可否を検討する。	3	入館券のキャッシュレス対応は実施／電話のIP電話化は見送り／福川倉庫・阿武川歴史民俗の検討は継続

評点 5: 想定以上の成果あり

4: 十分な成果あり

3: 概ね目標を達成

2: 目標を一部未達成

1: 目標未達成又は着手せず

令和6年度活動状況について（定量評価）

評価基準 A:達成度100%以上 B:99~80% C:80%未満

分野	評価項目	目標値 (a)	達成値 (b)	達成度 (b/a×100)	評価	備考
利用状況	年間入館者数（1月14日現在）	72,000	63,421	88.1	B	
	春期展示会（3月16日以降）	8,000	9,324	116.6	A	
	夏期展示会	51,200	44,812	87.5	B	
	秋期展示会	7,300	6,901	94.5	B	
	冬期展示会（1月14日現在）	4,000	1,523	38.1	-	
	次春期展示会（7月6日まで）	10,000	-	-	-	
	レファレンス件数	不明	200	-	-	R5記録喪失
展示会	開催回数	10	10	100.0	A	
	アンケート回収率					
	春期展示会	2%	0.3%	15.0	C	
	夏期展示会	1%	13.1%	1310.0	A	
	秋期展示会	2%	0.8%	38.5	C	
	冬期展示会（1月14日現在）	2%	-	-	-	
	次春期展示会	2%	-	-	-	
	来場者満足度					
	春期展示会	80	-	-	-	測定不能
	夏期展示会	80	91.4	114.3	A	
	秋期展示会	80	-	-	-	測定不能
	冬期展示会（1月14日現在）	80	88.0	-	-	
	次春期展示会	80	-	-	-	
教育普及	普及イベント開催回数	59	53	89.8	B	達成度はR5実績に対する比
	館内外授業回数	16	13	81.3	B	達成度はR6実績に対する比
	利用学校数	348	302	86.8	B	達成度はR7実績に対する比
資料の収集保管・活用	資料受入件数	110	44	40.0	C	達成度はR8実績に対する比
	資料貸出件数	1	2	200.0	A	達成度はR9実績に対する比
調査研究	論文・報告書等件数	4	7	175.0	A	達成度はR6実績に対する比
	研究発表件数	0	3	-	A	達成度はR7実績に対する比
情報発信	記者発表件数	9	14	155.6	A	達成度はR8実績に対する比
	SNS投稿件数	140	273	195.0	A	達成度はR9実績に対する比
	ホームページ閲覧件数	-	153,307	-	-	1月20日から過去1年間